

# 第1回 北海道ケアラー支援有識者会議 議事要旨

開催日時 令和3年6月28日(月) 18:00~19:30

開催場所 北海道庁本庁舎11階共用会議室

発言者	発言要旨
事務局 (杉本課長)	<p>ただいまから第1回北海道ケアラー支援有識者会議を開催させていただきます。</p> <p>私は本日の司会を務めます北海道保健福祉部高齢者保健福祉課介護運営担当課長の杉本と申します。よろしくお願いいたします。</p> <p>皆様ご多忙の中、本道のケアラー支援の取組にご協力いただき、また、会議への参画にご快諾いただき、ありがとうございます。</p> <p>また、先日実態調査票の案を事前にご確認いただき、貴重なご意見をいただき、重ねて御礼を申し上げます。</p> <p>本日の会議につきましては公開することとしており、会議の議事録と資料は、後日ホームページで公表いたしますので、あらかじめお知らせいたします。</p> <p>(配付資料の確認)</p> <p>それでは、会議の開会にあたりまして、保健福祉部高齢者支援局長の吉田からご挨拶を申し上げます。</p>
事務局 (吉田局長)	<p>高齢者支援局長の吉田でございます。委員の皆様方、今回の有識者会議にご参画いただきまして、本当にありがとうございます。そしてまたご多忙のところ、この会議にご出席いただき、感謝申し上げます。</p> <p>ケアラーの方々への支援につきましては、昨今社会的な問題としてクローズアップされてきており、国の方でのヤングケアラーの実態調査、その他プロジェクトチームからの報告等が行われておりますが、道といたしましても、ケアラーの方々の支援を今後積極的に進めていくため、皆様方にいろんなご意見を伺いたいと考えております。</p> <p>また、道としてこうした支援を進めていくため、まずは道内の現状など、ケアラーの方々がどのような状況にあるかということについて、道内の実態把握を行うため、調査を行いたいと考えており、併せて、皆様方にケアラーの方々を支援するための方策についてご意見をいただき、ご議論いただいた上で、ケアラーの方々が安心して暮らしていけるよう検討を進めていきたいと考えております。</p> <p>冒頭司会の方から申し上げましたとおり、本日は、まず実態調査の内容についてご議論いただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。</p>
事務局 (杉本課長)	<p>先ほど本日の資料の確認をいたしました。事前にご確認いただいたヤングケアラーに関する調査票につきましては、調査票のボリュームや内容に関して皆様から御意見をいただきましたので、あらためて道のヤングケアラー部会で調整させていただいた上で、皆様にお時間をいただければと存じます。よろしくお願いいたします。</p> <p>そのため、今回はヤングケアラーに関する調査票については、資料に含まれておりませんので、ご了承いただければと思います。</p> <p>次に、有識者の皆様のご紹介をさせていただきます。</p>

発言者	発言要旨
事務局 (杉本課長)	<p>(有識者会議構成員の紹介)</p> <p>以上の 11 名で本会議を進めさせていただきます。よろしくお願いいたします。</p> <p>それでは次第に沿って議事を進めて参ります。議事の 1 番、北海道ケアラー支援有識者会議の座長及び副座長の選任でございます。まず座長は委員の互選によることとしておりますが、立候補あるいはご推薦をいただきたいと存じますのでどなたか、いかがでしょうか。</p>
森委員 (栗山町)	<p>栗山町の森でございます。僭越ではございますけれども、私の方から発言させていただきたいと思っております。本町のケアラー対策の取り組みにあたりまして、長年アドバイスやサポートをいただいております、一般社団法人日本ケアラー連盟の理事であります中村健治様に是非座長をお願いしたいと思ひ、推薦いたします。</p>
事務局 (杉本課長)	<p>それでは座長につきましては、日本ケアラー連盟の中村理事にお願いしたいと思ひますが、皆様よろしいでしょうか。</p> <p>(異議なし)</p> <p>はい。ご異議なしと認めますので、中村理事に座長をお願いしたいと存じます。それでは座長からご挨拶を頂戴したいと思いますので、よろしくお願いいたします。</p>
中村座長 (ケアラー連盟)	<p>日本ケアラー連盟の中村でございます。僭越ながら座長を務めさせていただきたいと思ひますので、どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>日本ケアラー連盟としましては、介護を必要としている人も介護者も、ともに自分の人生の主人公になれる共生の社会をつくることを目指して、2010 年、大体 10 年ほど前でございますが、連盟を設立いたしまして、次の年には一般社団法人化し、さまざまな調査研究、ケアラー支援に関するツールづくり、それから法制化に向けた運動を十年間にわたって展開させてきました。</p> <p>最初の 2011 年には、ケアラーに関する全国実態調査を国の研究事業として受けさせていただき、北海道では、本日ご出席いただいております森さんの栗山町。東京の杉並区、新潟の南魚沼市、静岡の葵区、それから京都の山科区の 5 地区で全国のケアラー実態調査を進めさせていただきました。</p> <p>その時の調査では、ケアラーのいる世帯は気づかいケアラーも含めると約 4 世帯に 1 世帯という結果であり、それまでケアラーの実態としていた国民生活基礎調査による、「手助けや見守りを要するもののある世帯数」では概ね 10%程度という数値であったことから、その違いに驚いたところがございます。</p> <p>日本におけるケアラー支援につきましては、2000 年の介護保険導入の時の「介護の社会化」が一つの転機となっておりますが、実際には、家族介護という状況になっております。</p> <p>2016 年に閣議決定された日本 1 億総活躍プランでは、第 3 の矢の目標として、介護離職ゼロの実現が打ち出され、介護する家族の不安や、悩みに応える相談機能の強化、支援体制の充実が明記され、地域包括支援センター強化であったり、家族支援の普及に繋がってきております。</p>

発言者	発言要旨
中村座長 (ケアラー 連盟)	<p>これを受け 2018 年には市町村地域包括支援センターによる家族介護者支援マニュアル、「介護者本人の人生の支援」という副題がついたものですが、介護離職防止のための地域モデルを踏まえた支援手法の整備に関する研究報告として出されております。</p> <p>また、ヤングケアラーにつきましては先般実態調査が行われ、今年の 4 月に中学生では約 17 人に 1 人、高校生では約 24 人に 1 人がヤングケアラーに該当すると公表されたところであり、今年度末までに厚労省と文科省がヤングケアラー支援マニュアルを作成し、令和 4 年からは本格事業展開というような流れとなっているようでございます。</p> <p>北海道におきましても、この有識者会議を通じてケアラー支援対策について検討して参りたいと考えておりますので、どうかよろしくお願いをいたします。</p>
事務局 (杉本課長)	<p>ありがとうございます。</p> <p>ここからの進行は中村座長にお願いしたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。</p>
中村座長 (ケアラー 連盟)	<p>それでは承知いたしましたので、次に副座長の選任でございますが、副座長につきましては、私の方から指名させていただいてよろしいでしょうか。</p> <p>(異議なし)</p> <p>よろしいということでございましたので、今回の会議ではケアラー、ヤングケアラーという二つの大きなポイントがございますので、副座長につきましては北海道大学大学院教授の松本先生にお願いしたいと思っておりますが、よろしいでしょうか。</p> <p>(異議なし)</p> <p>それでは副座長につきましては、松本先生の方にお願いしたいと思っております。</p> <p>それでは議事の方を進めさせていただきたいと思っております。</p> <p>議事の 2 番目ですが、道の推進体制について、それから国の取り組み状況として、議事の 2、3 について、事務局から説明をお願いいたします。</p>
松本副座長 (北海道大 学)	<p>議事の前に確認してよろしいでしょうか。</p> <p>本日事務局から報告を受けて意見交換することと、決めなければならないことを、先にお示しいただいた方が、みなさん意見が述べやすいと思っております。</p>
中村座長 (ケアラー 連盟)	<p>申し訳ございませんでした。</p> <p>本日はまず道の推進体制と国の取り組み状況について事務局からご報告をいただき、何かあればご意見をお伺いしたいというところが 1 点。</p> <p>もう一つは、本日の議題の中心となります道の実態調査の実施ということで、先ほど杉本課長の方から、本日はヤングケアラーの部分については示せなかったとのことですので、ケアラーについての調査票について内容確認と、できれば確定をしていきたいというところでございます。</p> <p>このような流れで進めさせていただきたいと思っておりますがよろしいでしょうか。</p> <p>それでは、道の推進体制及び国の取り組み状況について、事務局から説明をお願いいたします。</p>

発言者	発言要旨
事務局（山内 課長補佐）	<p>事務局の山内と申します。資料 2 をご覧いただきたいと思います。</p> <p>北海道の推進体制の横長の資料でございます。</p> <p>北海道の推進体制としまして、まず、北海道ケアラー支援推進連携会議を我々が事務局となって持ち、福祉、医療、教育、労政、青少年部局の 5 部局 11 の関係課長で構成されております。</p> <p>また、この連携会議はもとより、有識者会議におきまして、施策の方向性を決めて展開を図るため、本日皆様方には、まずは、施策の検討に当たり、道内の実態を調べる目的の実態調査の方法などについてご議論いただきたいということでございます。</p> <p>それから資料 3 以降ですけれども 3-1 から 3-2、3-3 とございます。国の取り組みの状況をまとめた資料でございます。3-1 は割愛させていただきまして、3-2 をご覧ください。</p> <p>ヤングケアラー支援に関する国の取り組みで、厚労省の調査研究事業において、平成 30 年度から、ヤングケアラーに関する調査研究が行われているところでございます。</p> <p>令和 2 年度になりますけれども、ヤングケアラーの全国の中高 2 年生、それから、中学校、高校への全国初のアンケート調査というのが行われました。</p> <p>国のプロジェクトチーム会議におきまして、4 月にこの調査結果が報告され、その後、この調査結果等を踏まえ、本年 5 月になりますけれども、このプロジェクトチームによって今後取り組むべき施策というものが取りまとめられて報告、公表された状況でございます。</p> <p>資料 3-3 は、このプロジェクトチームによって今後取り組むべき施策がまとめられた内容となっております。</p> <p>資料 2 と資料 3 に関する報告については以上でございます。</p>
中村座長 （ケアラー 連盟）	<p>どうもありがとうございました。北海道の推進体制及び国の取り組み状況について事務局よりご説明がございましたが、ご質問等はございますでしょうか。</p> <p>特にないようであれば次の議題に移らさせていただきたいと思います。</p> <p>次でございますが、議事の 4 つ目になります。道の実態調査の実施について事務局から説明をお願いします。</p>
事務局（山内 課長補佐）	<p>それでは、資料 4-1。</p> <p>道によるケアラー実態調査概要（案）という資料をご覧ください。</p> <p>冒頭にご説明申し上げましたが、ヤングケアラーについては本日ご意見をいただく段階に至っていないということでございまして、ヤングケアラー以外のケアラーご本人様、それから、そのケアラーの方を相談・支援している機関を対象とする調査、この 2 つの調査について、調査の対象、調査の方法、回収方法、調査項目の内容、これらにつきまして、皆さんにご議論ご意見を賜りたいということでございます。</p> <p>まずケアラーご本人様に対する調査でございますけれども、この調査の対象ですが、地域包括支援センターの利用者を抽出して調査対象とし、全道には 277 ヶ所の地域包括支援センターが運営されておりますけれども、1 箇所について、4 名ずつ、抽出をお</p>

発言者	発言要旨
事務局（山内課長補佐）	<p>願いするという事を考えております。277ヶ所で各4名ずつ抽出をいたしますと、約1100人のケアラーの方を選んで、調査をするということになります。</p> <p>もう1つ、障がいのある方をケアしているケアラーということで、障害者相談支援事業所の利用者、これも全道に505ヶ所ございますけれども、1ヶ所につき3名ずつを抽出いたしまして、約1500人。これらの方を、調査対象とする考えでございます。</p> <p>合わせますと約2600人という数になりますが、この数につきましては、5年に1度の国の社会生活基本調査、直近では平成28年度の調査結果が公表されておまして、これによると、あくまでも国の推計値になりますが、北海道内に15歳以上で普段介護している人の数というのが26万8000人という推計が出ております。この約1%を抽出するという考えで、これぐらいの規模感でやってはどうかということでございます。</p> <p>それからケアラーご本人様の調査方法ですけれども、地域包括支援センター、それから、障害者相談支援事業所から、抽出の上、調査の対象者に調査票を配布いただくということで考えております。</p> <p>一方、回収の方法ですけれども、調査票の配布時には、道への返信用封筒を同封するなどして、回答については直接、この調査対象となったケアラーの方々から、道に郵送されることを想定しております。</p> <p>また一方、道のホームページを活用したweb回答についても活用できないか、今検討しております。それから調査内容ですけれども、これについては後程我々の調査票の案を説明させていただきます。</p> <p>もう一つ、ケアラーご本人様のほかに、相談支援機関への調査につきましては、先ほど申し上げました地域包括支援センター全道277ヶ所、それから障害者相談支援事業所全道505ヶ所に加えまして、生活困窮者自立支援の事業所全道50ヶ所。このすべてに対しまして、Eメールを使って、電子媒体の調査票を送って、なおかつ電子媒体で回答いただくということを考えてございます。</p> <p>調査内容については、後程案をご説明させていただきたいと思っております。</p> <p>また相談支援機関に対する調査の結果を踏まえまして9月以降に、抽出によるインタビュー調査も考えております。そこで調査項目についてはインタビュー調査への協力の可否を問う設問も加えようということで考えてございます。</p> <p>調査の概要については以上です。</p> <p>続きまして、実態調査票の中身についてご意見をいただきたいと思っております。</p> <p>資料4-2、資料4-3の調査票のたたき台と、それから資料4-4はこのたたき台について、皆様方からご意見をいただいた内容と、それへの対応案を記載したものです。まず資料4-2の方、1枚めくっていただいて2ページ目。問いの1番でございます。ケアをしているあなた自身についてという設問です。</p> <p>この問1の設問ですが、まずご意見としてあったのが資料4-4の上段に調査項目に対する修正意見及び事務局修正という欄がございますけれども、上から3段目をご覧くださいと思います。</p>

発言者	発言要旨
事務局（山内課長補佐）	<p>黒四角の1でケアラー自身について主にケアを担っている、主たるケアラーが回答するのか、そうでない場合、主たるケアラーか補助的ケアラーかを問う設問が必要ではないかという意見が出ております。</p> <p>そこで事務局としての対応案ですけれども、回答者につきましては、主たるケアラーに限定してはどうかと考えております。また、事前の意見としまして、医療的ケア児がいる家庭の場合は誰が回答するのかということもあわせて、意見を頂戴しております。これにつきましても、医療的ケア児をケアしている主たるケアラーについてご回答いただくということで考えてございます。</p> <p>もう1つ引き続きまして、性別を問う欄ですけれども、これは回答者に配慮して性別の解答選択肢に、その他に加えて答えたくないという選択肢を加えてはどうかということで、これは事務局側が修正意見として、本日ご提示させていただくものです。</p> <p>それから、(2)の同居人数のところですが、あなたを含めて同居している方は何人ですかという設問に関する部分です。同居の子供の人数の確認について、これは介護をしていることと合わせて、子育て、これを同時にやっている方の状況がわかるのではないかということで、子供の人数の確認を入れたほうがよいのではないかという意見です。そこで、事務局としては、子どもの人数、18歳未満の人数とそれから、その内数としまして、未就学児が何人いるかという項目を設けてはどうか、という提案でございます。このケアと子育てというところでダブルケアという問題に関わるところなのですが、子どもの人数の内訳として未就学児が良いのか、あるいは小学生までの人数を答えていただくようなことが良いのか、これについて、少し議論の余地があるのかと思いますので、ご意見の方よろしくお願ひしたいと思います。</p> <p>それから、先に進めさせていただきます。(3)の問いについて就労状況について問う設問でございます。家族従事者というのが回答選択肢の中にあつたのですが、この説明がわかりづらいということで、これに関しては自営業の手伝いなどという文言に変えてございます。それから(4)ケアラー支援についてですが、こちら事務局側からの修正提案でございます。新たな設問として、ケアラー、ヤングケアラーへの支援が社会問題化していることの認識の有無を問う設問を追加してはどうかというご提案でございます。</p> <p>回答の仕方としては知っているか知らないか。それから(5)あなた自身ケアラーだと思っているか、ケアラーの自覚を問う設問を追加してはどうかということでございます。それから(6)家族へのケアについて、ケアラーの方自身がどのように考えているかということ問う設問を追加してはどうか。</p> <p>これに関しては選択肢として、家族のケアを行うのは当然である、ある程度は仕方ないと思う、できればケアをしたくないと思う、ケアをしたくない、こういった四つの選択肢で回答いただくということを入れてはどうかということです。</p> <p>それから(7)これは公的支援サービスに関してですが、要介護者などケアを受けるものを対象に、どのような公的サービス、介護や障害福祉といった、公的サービスがあ</p>

発言者	発言要旨
事務局（山内課長補佐）	<p>るかの理解の有無を問う設問を追加してはどうかという事でございます。選択の回答としては、知っている、知らない、知っているが手続きがわからない、こういった設問でございます。</p> <p>設問の説明で先に進めさせていただきます。問2の（8）になります。</p> <p>（8）については、ケアの相手方を複数に記載できる、回答内容となっております、これについては、表の中で1人目2人目3人目というケアの相手の方の状況などを書いていただくものとなっております。そこで1人目2人目3人目というのを、どういふ順番で書いていくかについてご意見が出ております。</p> <p>そこでケアの割合の高い方から順に記載をしていただくというようにしてはどうかという意見がございました。これに関しては、提案通りに記載していただくように、回答者にお伝えするという事で考えております。</p> <p>それから、この問2（8）の（ア）に関する選択項目。ケアをしている方が、あなたから見てどのような関係に当たる方かということ問う設問に配偶者という項目が、最初入っていなかったもので、これを加えるべきというご意見です。これについてもご提案通り、入れるという方向で整理しております。</p> <p>それから、（エ）あなたがケアをしている方について、現在どのような場所で生活していますかということについて、当初、入所施設という項目が回答選択肢にありましたが、これについて施設入所している方をケアしている方、ということまで抽出して調査をする必要があるでしょうかというご意見をいただいております。</p> <p>施設入所している方をケアしている方というのは、それほど大きな負担がないのではないかといった観点から、こういった意見が出ているのではないかと思うのですが、これについては事務局としては、施設入所者をケアしている方のケアラーの方を抽出で調査するという事はしない方向で考えてございます。</p> <p>それから（5）ケアの相手方の状況、依存症の説明を記載すべきというところで、これは依存症という選択肢の後ろに、括弧でアルコール薬物などという記載を加えることでこれはご提案通り対応したいと思います。</p> <p>それから難病に括弧書きで病名を記載させてはどうかと、そういう欄を設けるべきではないかというご意見もいただいております。</p> <p>例えばパーキンソン病ですとかALSということですが、本調査におきましては病名までの把握をしたいというものではないと考えておまして、これについては、そこまでの必要はないということで、事務局の対応としては、病名の欄は設けないという、整理をさせていただいております。</p> <p>それから4-2の調査票3ページ目をご覧くださいと思います。</p> <p>（カ）ケアの内容についてのご意見です。外出にあたっての援助について、これは事務局の修正案です。買い物と通院の回答項目がもともと別にありましたが、これを一つに統合してはどうかということです。それから回答選択肢に、本人の意思を他人に伝達するための支援ということをケアの内容の一つとして追加してはどうか、という事務局</p>

発言者	発言要旨
事務局 (山内補佐)	<p>の修正意見です。それから、(カ) ⑦の服薬の声掛けや準備、体温や血圧測定などの療養の手助けの項目ですが、もともと医療の手助けということだったので療養の手助けという文言に修正してはどうかという、事務局の修正意見です。</p> <p>それから、(キ) 利用サービスについて、サービスを利用していないその理由を問う設問を追加してはどうかということで、今設問にはございませんが、その理由を問う設問を追加してはどうかということです。</p> <p>次に (10)、資料 4 の一覧表では (6) となって、(6) ケアの 1 日の時間というふうに書いてありますが、(10) 1 日のケア時間の誤りです。</p> <p>ここでご意見としては、平日と休日の差があるので例えば週平均と定義づけすべきということがございます。こちらは提案通り修正したいと思います。</p> <p>それから (11) ケアの経験年数です。こちらは期間の短い方から順に並べるべきということで最初は期間の長い方から順にしておりましたが、期間の短い順に並べ替えをするという修正をしています。</p> <p>次に、問 3 (12) です。健康や健康維持を回答者が理解しやすいような文言に変更しております。同じように、通院しているというのを回答者が理解しやすいように、病院に通うようになったというような表現の仕方に変えてはどうかという事務局意見です。</p> <p>それから (13) 就労状況の変化についてです。ケアを行いたいから行っている趣味や社会活動の変化についての設問を設けてはどうかということでございまして、これについては提案通りの変更をしたいと思います。それから定職に就いたことがないケアラーは就労経験なしと就労状況の変化なしの二つに該当して回答してしまうのではないかとご意見をいただきましたが、定職に就いたことがない人というのは、就労経験なしのみに該当すると判断できるのではないかとということで、これについてはそのままの選択項目でよろしいのではないかと考えております。</p> <p>それから (14-1)、就労を続けられている理由をもともと設問項目にしてございました。解答選択肢の各種サービスが何を指すかを定義づけすべきというようなご意見がございました。行政サービスなのか、民間サービスか、これについて公的福祉サービス(介護、障害福祉など)というのが利用できなくなったという時に、文言を修正してございます。</p> <p>それから設問タイトルですけれども、もともとは就労を続けられている理由というところだったのでこれもわかりにくい表現ではないかということで、事務局の方であなただの就業を支えていることを教えてくださいというような表現に変えてはどうかというところがございます。</p> <p>それから (14-2) ケアを機に退職した理由、でございます。</p> <p>調査票の方は 4 ページ目になります。解答選択肢のサービスが利用できなくなったというところの意味がわかりづらいという意見がございました。これも行政サービスのことなのか、会社の制度のことなのか、意味がわかりにくいということで、福祉サービスが利用できなくなった、ということに変更してはどうかということでございます。</p>



発言者	発言要旨
事務局 (山内補佐)	<p>それから、職場の環境という回答選択肢は抽象的すぎるので具体的な表現にすべきではないかと。例として残業や出張ができなくなって、その結果会社にいづらくなったというような選択肢を変えてはどうか、ということでこちらについては、提案通り直すことでよろしいのではないかと考えてございます。</p> <p>それから次の設問(15) ケアの協力者、これは回答書が主たるケアラーであることを前提としているように受け取れるというご意見をいただいております。そこで説明の冒頭にもありましたように、主たるケアラーに限定して回答いただくということで、この設問についてはこのままでよろしいのではないかと考えております。</p> <p>それから、ケアの協力者の解答選択肢に、息子、娘というものがなかったもので、これを加えてはどうかと事務局で考えてございます。</p> <p>それから(16) 相談できる人や、窓口、機関でございます。</p> <p>ケアの方針を決める際にケアラーの意見がどのくらい反映されているか現状を知る必要があるのではないかとご意見をいただいております。</p> <p>そこでこれに関しては提案通り、その反映されているかの認識を問う設問を設けるということでございます。また一方解答選択肢に市町村というところも、追加してはどうかと事務局で考えてございます。</p> <p>それから(18) の設問、悩みの内容についてお答えいただくということであります。どのようなことに悩んでいるかを問う設問でございます。</p> <p>回答選択肢の中には、意味が通りにくいようなものもございますことから、事務局の方で、ここに記載のとおり、いくつか表現の仕方を変えるという提案をさせていただいております。詳細についてはご省略をさせていただきます。</p> <p>それから(19) もしもの場合にケアを担ってくれる方、設問文中、被介護者のケアの部分、現在ケアを受けている方というような表現に変更したらどうかということでございます。</p> <p>(20) 求める支援のところでございます。これについてもケアラー自身に必要と思われるような支援という言い方に変えてはどうかということ、その他、わかりやすい表現に変えたほうが良いところを事務局の方からいくつかご提案してその内容を記載してございます。</p> <p>最後、7番の自由意見というのが、調査票の5ページ目に書いてありまして、当初、皆様にお示しした時には、感染症の新型コロナの影響による困り事というようなことを、あったのですけれども、これについて、感染症対策の一環ということでの対応になりますので、削除してはどうかと。というようなことでございます。</p> <p>以上ケアラー全般向けのご意見いただいた内容と修正意見の対応について、駆け足ですけれども、ご説明させていただきました。</p>
中村座長 (ケアラー 連盟)	<p>どうもありがとうございました。</p> <p>資料4-1の部分で、道によるケアラー実態調査概要についてはケアラー本人への調査と相談支援機関に対する調査という二つがございましたが、今回はまず、ケアラー用</p>

発言者	発言要旨
<p>中村座長 (ケアラー 連盟)</p>	<p>の部分のみ今説明をさせていただいて、ここで皆様方からの意見をお伺いしたいと思 います。それが終わりましたら相談支援機関用に進めさせていただきたいと思 います。</p> <p>最初に1点ですが、資料4-1でケアラー本人(ヤングケアラー以外)と書いていま すが、今回の調査の説明を受ける中で、主たるケアラーという対象枠がございますので、 年齢のところも本人が書くということも含めて、おじいちゃんおばあちゃん、お孫さ んの世帯というのもございますので、そういった経緯からヤングケアラーの方が、主た る介護者になっている可能性もございますので、ここでヤングケアラー以外と除外をす るよりも、説明のあった主たるケアラーという方を対象に、調査をさせていただくとい うところの理解でよろしいかどうかも含めてご意見をお伺いしたいです。</p> <p>特に先ほど事務局の方から問1(2)の子どもさんのところで、子どもの人数の内数 の中の未就学児の部分、未就学児と表記をするのか小学生以下という表記をするのか も含めて、ご発言がございましたのでそれを含めて、ご意見をいただきたいと思 います。ご意見等がある方につきましては大変恐縮ですが、挙手をいただければと思 います。</p> <p>それでは、澤田先生からどうぞ。</p>
<p>澤田委員 (札幌医科 大学)</p>	<p>準備ありがとうございます。大変興味深く拝見していました。質問項目についてご意 見させていただきたいです。</p> <p>問1(6)家族の方へのケアについてどのように考えますかという部分、当然である という設問があつて、下の方でケアをしたくないとなるので、ここは、「家族の方へのケ アをすることについて、どのように考えていますか」にすると、回答と齟齬が生じない のではないのでしょうか。</p> <p>(5)自分自身がケアラーだと思いますかという部分、調査票の一番最初に「家族等の 介護を主に担っているケアラーの方にお伺いします」としているの、ケアラーだと思 う人が答えていると思うので、順番をかえるか、設問をなくすか検討されてはどうか でしょうか。</p> <p>問2(8)(カ)ですが、私は精神科看護が専門で、主に精神障がいの方を想定し考えた 中で、外出の援助のところ、通院と買い物を一緒にするという説明がありましたが、 受診勧奨がすごく大変な場合があるので、「受診勧奨」を独立させて項目で一つ設けた らどうか。行ってくださるかどうかがタイミングも全部こちらで図っているんな調整の中 でしなければいけないというのがあると思います。</p> <p>ケアの内容で、医療処置、吸引ですとかレスピレーター管理ですとか、すごく重た いものもあると思うので、そういった項目があつてもよいのではないかと思います。</p> <p>どちらかの奥様が精神疾患でお子さんがいる場合に旦那様が全部育児をやらなければ ならない状況もあるので、育児の項目があつてもよいかと思。</p> <p>問2(8)(キ)のサービスについてですが、サービスというと福祉のものですけれど も、医療サービス、ヘルパーと看護師と一緒にいて医療と福祉と区別していない かと思いましたが、病院があつてもよいかと思。</p> <p>また、どこに入れてよいかわからないが、コンスタントにケアではなく、精神の場合</p>

発言者	発言要旨
澤田委員 (札幌医科大学)	は急に病状が悪化してそれを察知して対応しなければならないという状況があるので、そういうこともどこかに表現できたらよいかと思いました。 意見は以上です。
中村座長 (ケアラー連盟)	どうもありがとうございました。 今の部分については事務局でいかがでしょうか。
事務局 (吉田局長)	局長の吉田です。 そのとおりだと思うので、そのように整理したいと思います、最後のコンスタントにケアという部分だけ、どういう表現が良いのか考えさせていただきたい。
中村座長 (ケアラー連盟)	それ以外のご意見については、いかがでしょうか。 それでは松本先生お願いします。
松本副座長 (北海道大学)	<p>とても大変な作業だと思います。それをわかった上で辛口のコメントになると思いますが、これに対して私意見出していません。時間がなかったということもあるのですけど大変出しにくい。というのは、調査票だけ送られてきて、この調査で何を明らかにしたいのかということの箇条書きなりメモなり、どういう政策を対応させている、構想しているのかということがないので、調査項目そのものの評価ができないのです。だからその点、このままずるずる進んでいいだろうかという危惧があります。これが1点。もう一つ大きなところでいうと、この調査対象の設定のところが、地域包括を利用されている方と相談支援事業所を利用されている方なのです。</p> <p>そうすると、ケアラー全体の動向を知るというよりは、そこを利用されている方の状況や、ご意見を知ることが実際のところだと思います。だとした時に、やはり利用されている制度、ケアラーの問題で一番深刻なのは、いろんな制度を利用されていない方、ケアをしても孤立して、いろんな制度が遠ざけられている、あるいは自主的に利用していない方が問題だと思うのですけれども、そこが、一旦除外されるということです。その上で、制度を利用されている方に聞いているわけですね。だとしたら、その制度に対する評価ですとか、それはアクセスの段階でスムーズにいったのかとか、現在の対応がそれで大丈夫なのかだとか、今後どのようなことが望まれるのかだとか、制度全体に対してご意見はありませんかという話になっているのだけれども、今実際にいろんな支援を受けられている方に対する、アンケートなのですから、そこに対する意見とか評価がないのです。</p> <p>それは、大変大きな欠落だと思います。それと関わって、費用負担。費用負担の負担感も含めて、幾ら費用負担されているかということ自体は、こういうアンケート調査で難しいかもしれませんが、負担感があるですとか、それは制度の支払いだけではなくて、例えば、いろんなものの購入をするですとか、そういう実際にケアに関わるような費用に関する負担感も含めて、一切出てこない。何か困ったことありませんかと聞いている。こういう作りになっているようにみえますので、実際に制度を</p>

発言者	発言要旨
<p>松本副座長 (北海道大学)</p>	<p>利用される方に対する調査であれば、現在の利用されている制度に対する評価、ここが軸になるべきじゃないかと。</p> <p>それと、実際にどのようなケアをされていて、主観的にどのようなことがお困りになっているかということと、ご本人のいろんな活動の制約、あるいは健康への影響がどうなっているかということが、そこに関わると理解するわけですけども、そういうことが全くないので、これは一体何を知りたい調査なのだろうかというのがわからないので、コメントのしようもないのが私の意見です。ですので、これは7月の頭に拙速にやるということだと、これでいくしかないのしょうけども、もう一度この制度の評価と費用負担、費用も直接支払いだけじゃなくてね、間接的なことも含めて、ご家族への負担がどうなっているかということを見て、その上でケアラーご本人の負担なり、心身への負担、という事にいく方が、聞く方も聞かれる方も、答えやすいと思います。</p> <p>いきなりいろんな事を聞かれて、これが一体それぞれの質問がどういう関係になっているのか、構造が大変見えにくい。それは、実際何を知りたいか、どういう負担をするのかという議論がないまま、調査票だけ出てきているような印象を持っているもので、土壇場でこういうコメントで申し訳ないのですけれども。</p> <p>もう一つそれと関わっていくと、先ほど澤田先生がおっしゃっていた、あなたケアラーですかという設問は、全く不要だろうと私は思っています。</p> <p>ケアに対する認識も、実際に今何が困っているかという事とどう関係するのだろうか、よくわからないというのが率直なところです。このままこれが微修正で進んでいくということなのかどうかについて、私はそれだとまずいだろうという意見をもっています。以上です。</p>
<p>中村座長 (ケアラー連盟)</p>	<p>ありがとうございました。松本委員からもお話がございましたが、先ほど、道の説明で、資料2の北海道の推進体制の説明がございました。</p> <p>この有識者会議に求められる立ち位置は、施策の方向性の検討ということで調査実施を踏まえて、それを分析して施策展開を凶るところで、道のケアラー支援推進連携会議にもお伝えをしていくということでございますので、松本委員のご意見のとおり、今回の調査自体、ケアラー自体の現状を明らかにするというだけではなくて、支援を受けている、相談を受けているケアラーの方を調査するという事になってございますので、現状の施策に対する評価、そういうものは大変必要かと思えます。そしてそれを受けて今後の施策の展開というのにも結びつけていきたいというもので、それと費用負担というものについても再度整理をして、後日また議論をさせていただきたいと思えます。</p> <p>事務局の方これでよろしいでしょうか。</p>
<p>事務局(山内課長補佐)</p>	<p>はい。</p>

発言者	発言要旨
<p>松本副座長 (北海道大学)</p>	<p>重ねてよろしいでしょうか。大変時期も押し迫っている中で、ちゃぶ台をひっくり返すコメントをして大変申し訳ないと思っておりますが、特に制度利用についての評価を入れることをご検討いただけるということであれば、ぜひお願いしたいということと、そのときに今受けている支援の前に、そこにつながるまでの色々なご苦労があると思う。例えば情報が届いていなかった方ですとか、今は、安定的につながっている方が対象になるのだと思われる。事業所の方から、あなたこの調査をやってもらえないか？という感じで、そこの事業所で3人とか4人とかに調査票を配るわけで、現在安定的につながっているという方でしょうけれど、最初に支援につながる時というのは、一番ご苦労があると思う。ケアラーの方が支援を受けるときのプロセスの中で、色々なご苦労をされる点、あるいは政策的にそこは何とかできそうな点、介入点とかあると思われる。そこを明らかにしていけないと、あるいはそこが議論できるような、調査の組み立てになっていないと、実際の施策と結びつけるときに、かなり距離が生じてしまう。</p> <p>座長は、ケアラー連盟のお立場から、おそらくそういうことについての経験や見識があたりだと思うので、そこを是非、反映させるようなかたちにしていいただければと思います。ケアラーが苦労するポイントみたいなところが、ケアを受け始めるときとか、支援を受け始めるときとか、特に精神障害のある方が支援につながる時や、認知症のご高齢の方を支援につなげるときの葛藤だとか。そこを是非ご検討いただければと考えています。以上であります。</p>
<p>事務局 (吉田局長)</p>	<p>すみません、率直にお伺いしてよろしいですか。実はこの調査票を作っているときに、ポイントとして思っていたのは、まず支援につながっていない人というのがどうなっているのかというところがありました。</p> <p>今は確かに包括と相談支援事業所をサービス利用されている方だと思います。田舎だけかもしれませんが、必ずしもサービスに繋がってなくても相談に行っている人はいるのだと思っていました。私も市役所や役場に居た経験から言うと、相談支援事業所の方に相談してごらんと対応した場合でも、サービスに繋がっているかという、繋がっていない人が結構いると思います。</p> <p>実は、地域包括や相談支援事業所にこういうサービスにつながっていない人も抽出してもらえないかなと思っていただけで、必ずしもサービスの中身の良い悪いという評価ではありません。一度相談には来られたという方で、実際にどんなことで困っているのかというのを引き出したいという考えであり、そういう場合にはどういうふうに直していけば良いでしょうか。</p>
<p>松本副座長 (北海道大学)</p>	<p>そうだとすると、調査の設計そのものの意図というか、狙いみたいなものが最初に共有されていないとならない。地域包括なりがどういう方にこの調査票を渡してくれとお願いするのか、この会議で共有されていないと。調査票のワーディングがこれでいいですかと聞かれても。サービスを利用されている方と、なかなかつながりにくい方を両方含んで、何とか調査票を撒いてほしいということであれば、全体像を反映するというよりも、そういう方の場合には何が困っているという形になるのだろうと思います。</p>

発言者	発言要旨
事務局 (吉田局長)	「あなたはケアラーと感じていますか？」という設問は、実はそういう意図も入っていました。
松本副座長 (北海道大学)	<p>そうであれば、最初にきちんと制度に繋がっているのか、そうでないのかを区分できる設問がないと困ります。</p> <p>制度とのつながりで大きく二区分あって、制度に緩やかに繋がっている、あるいはあんまり繋がってないような人と、繋がっている人と、なかなか繋がりにくい人も含めてお願いするというのであれば、そこは、なかなか繋がらない人に渡すのは難しいでしょうから、そこは回収率が低いとか母数が小さくなくてもそれはそれでいいというような割り切り方で進めるということなのだと思います。</p> <p>そうすれば少数でもそこは区分しないと、一緒に集計してしまうと、全体の中に多分繋がりにくいところが埋もれる形になります。だから調査の狙いがあって、対象があってデザインを考えるというようなステップを踏んでいかないと、そこが曖昧で出てきた結果の解釈が難しくなると思います。</p> <p>意図がなかなか伝わりにくいので、今初めて吉田さんから伺って、そういう事だったらと思ったところもありました。</p>
事務局 (吉田局長)	時間が過ぎてしまっていますので、お時間の許す範囲教えて欲しいのですが、在宅介護・地域包括センター協会や地域づくりコーディネーターの方もいらっしゃるのですが、今僕が申し上げた、実はサービスに繋がっていないのだけどケアをしていて色々悩んでいるようだとか、そういう方を人数は少ないのかもしれないですが、現実的に抽出できるかどうかこの場で教えていただければと思いますが、いかがでしょうか。
西村委員 (認知症の人を支える家族の会)	この調査で、先生がおっしゃったように、どういうものを導き出すかっていうところがとても大事だと思います。それとどう繋がってくるかっていう部分で例えば、今は繋がっているけど、ここに繋がるまでどうであったかっていうところを、質問すると、そこら辺もまた、見えてくるのではないかと思います。
事務局 (吉田局長)	<p>どうもありがとうございます。</p> <p>それでは包括の今井さんお願いします</p>
今井委員 (地域包括・在宅介護支援センター協議会)	<p>包括支援センターが定期的に訪問を繰り返している方を、何らかのつながりがあると捉えるかどうかという問題が1つあると思う。</p> <p>どのサービスにつながっているということだけではなく、お金を出してとか、サービス利用にまでつながってなくても包括支援センターが定期的に訪問しているという方をつながりがあると見るかどうかということ。</p> <p>先ほどのことと言えば、ある程度抽出したい方の対象者の状況というのを少し明確にさせていただかないと。この調査票だけを見ると、私たちはある程度、信頼関係ができていて、調査に協力をしてくれやすそうな方を選ぶと思う。</p> <p>何とか包括の方で、訪問はしているけれども、あまりサービスにつながっていない人は、少し関わりに消極的なところがあるので、そこにも回答を求めるといのであれば、きちんと説明が全道の包括に行き渡っていないとかなり難しいのではと思う。</p>

発言者	発言要旨
事務局 (吉田局長)	<p>どうもありがとうございます。地域づくりコーディネーターの小野さんはご出席されてますでしょうか。まだ来られてないですね。</p> <p>では、小倉さんお願いします。</p>
小倉委員 (日本労働組合総連合会北海道連合会)	<p>連合の小倉です。ワーディングの問題もあるのですが、残念ながらケアラーという言葉は馴染みがなく、カタカナが多くてわかりにくい印象を受けています。</p> <p>「ケア」はもう少し答えられるような言葉で、報告をまとめる時にはケアラーという言葉でいいと思うのですが、問題数もこのままでは多いと感じています。実態調査なのか意識調査なのか、その点も明確にした方が良いでしょう。</p>
中村座長 (ケアラー連盟)	<p>ケアラーの部分は調査票の最初のところにケアラーの説明をさせていただいているのですが、介護者支援ですとかそういう表現だと、高齢者介護に引きずられる可能性もあるということも含めて、障害児童、療育等々含めて包含する形でケアラーという表現を使わせてもらっています。それなので、調査する段階では一番最初の表紙のところでフォローをいただけないかというふうに思います。</p> <p>先ほど、松本先生や西村さんからもご意見ありましたが、しっかり地域包括とか、相談支援事業所の方に、そういう趣旨、対象そういうものがしっかりわかるような文書もつけてお送りしたいと考えております</p>
松本副座長 (北海道大学)	<p>相談支援事業所を利用されている方というのは、障害をもつ方をケアしている方のわけで、障害のある方の大体の年齢層とか、どういう障害があるかとかいう情報があるのでしょうか。</p> <p>何が言いたいのかというと、地域包括は高齢者のケアをしているという、おそらく認知症をもっておられる方だとかという理解で良いと思うが、それで障害の方は、身体障害、知的障害、精神障害と広くあるわけで、年齢層は高齢者の方を含みながら、割ともう少し若い方、中年層の方ということもあります。</p> <p>そうすると、対象はケアラーという点では同じでも、ケアを受けている方の状況というのは、大分違うと。使っている制度枠も違うということになる。それで全く全部同じ調査票にならないとだめなのかどうか。</p> <p>包括を利用されている方と、障害相談支援事業所とでは、制度へのつながり方というのが大分違うので、そうすると、共通部分はあるのと、それぞれ独立した部分があるという組み立ての方が、両方のことを全部1つに入れるよりも、調査票を書く側が書きやすいと思う。これは配布の段階で分けることが可能なので、むしろそうした方が良くて、制度の評価とか、つながり方だとかは共通の部分と異なる部分があるので、そこは分けた方が書きやすいし答えやすい。</p> <p>分析するときも、共通するところは共通のデータとしてきれいにできるが、異なる部分も全部一緒にして分析してしまうと、両方の特徴が相殺されてしまうのではないかと。包括の方の利用者と、相談事業所の方の利用者で別に分析せざるをえないと思います。</p> <p>ケアラーとして悩みは、共通でいいと思う。それでも、年齢層は大分違うはずだと思う。ボリュームゾーンみたいなものが、調査票の共通部分と分けるところって、配付して回</p>

発言者	発言要旨
学)	<p>収するという方が、資料の使い勝手がいいし、ケアラーとしての悩みというのは共通で良いと思うが、調査票は分けた方がそれぞれの特徴がシャープに出ると思う。</p> <p>さきほど小倉委員から指摘のあった言葉の使い方も調査票を分けることでそれぞれの領域にあったものにできる余地があるかもしれない。調査票を1つにまとめる積極的理由はないと思う。</p> <p>また、両方に分けたにしても、お年寄りがいて、病人もいるというように複数の要介護者がいる場合についても、そこはきちんと拾えるようにしたら良いと思う。</p>
事務局 (吉田局長)	<p>議論を聞いていて、一つにまとめる積極的な理由はないと思いました。</p> <p>調査票を分ける方向で検討させていただきたい</p>
松本副座長 (北海道大学)	<p>両方分けたにしても、お年寄りがいて病人もいるような、複数介護者がいるような要介護者がいるような時もあるので、そこはきちんと拾えるようにしたうえで実施できたらよいと思う。</p>
中村座長 (ケアラー連盟)	<p>ご意見いろいろいただきましたので、今回すぐ整理ということはできませんので、事務局の方で、整理をさせていただきたいと思いますが、他の委員の方々からもご意見させていただきたいと思います。</p> <p>今の流れでいうと、対象者のところ、制度につながるまでのこと、費用問題とか、そういうことも含めてもう再検討させていただきたい。</p>
今西委員 (北海道スクールソーシャルワーカー)	<p>札幌大谷短大の今西と申します。調査票を見せていただいた中で、今回のケアラーの部分でのコメントは返していないのですが、障害のある子どもの子育てというところが一つ入っていると思うのですけれども、この子育てという部分で見たときに、この対象の場所が、どのような年齢層として想定している子育てなのかというところが、若干見えにくいところがあったので、その辺の把握を、いわゆる障害を疑われるところから、障害が確定してその後の部分のところを把握していくケアラー調査をするのか、そういったところの部分の対象ゾーンがこれでいいのかというところは、別途コメントの方にも少しはのせられたところはあったのですけれども、その対象ゾーンを広げるともっと大きくなっていくので、こういった障害のある子どもの子育てを一つとっても、調査の仕方が変わっていく感じがしておりました。</p> <p>教育というところで行くと例えば療育機関へ通園するとか、同行するとか、そういったものもあるので、項目をケアの中に一つ入れてこなければならぬかということは感じながら、伺っておりました。</p> <p>今のところ、そのような感じを持っておりますので、もう一度内容見直しというところで、精査を今後できればなと思っております。</p>
中村座長 (ケアラー連盟)	<p>どうもありがとうございます。栗山の森さんいかがでしょうか。</p>
森委員 (栗山町)	<p>栗山の森です。ケアラー支援の関係は、先ほど、中村先生の方からお話ありましたように、10年前に調査を実施いたしまして、それから5年、昨年、の全部で3回本町の</p>



発言者	発言要旨
	<p>高齢者を対象にした、調査を実施しているところでございます。</p> <p>今回の道の調査については悉皆調査ではなくて、それぞれの包括支援センターの中で、4人、障害者相談支援事業の利用者3人を抽出した調査になると思うのですが、ケアラー本人への調査でやはり実態を掴むということは、非常に大事なことだと思っ ているところでございまして、協力してくれそうな人、それぞれの市町村だとか包括の方で選ぶかもしれませんが、私はそれも全て悩みがあって、調査した結果、こういう支援が必要だなということになるのではないかなと思っ ているところでございまして、確かに、制度の支援を受けてない人にも調査できれば、それはとてもいいことな のですけれども、そうすると全員に悉皆調査をしなければならないということでも、私はこの抽出、抽出の数が少ない多いというのがあるかもしれませんが も、その中で、当事者がどういう悩みを抱えて、どういう支援が必要なのかということ を、やはり明らかにするということだったわけですね。今回、非常に苦勞して、この調 査票を作られてきたと思うのですが、私は概ねこの調査票でいいと思ったところ です。</p>
<p>中村座長 (ケアラー 連盟)</p>	<p>どうもありがとうございます。 石狩の鈴木さんよろしいでしょうか。</p>
<p>鈴木委員 (石狩市教 育委員会)</p>	<p>今日は皆さんのいろんな提案議論聞かせていただいて、やはり、実態調査の狙い、 共有ということをしてしながら、今日のところの宿題を、事務局の方で整理をする中で、 この後ヤングケアラーの方にも繋がっていくと思うので、その部分は大切な部分を、 見据えながら、調整をしていくことが必要だと皆さんの意見を聞いておりました。</p>
<p>中村座長 (ケアラー 連盟)</p>	<p>次に北海道経済連合会の桑原さん、よろしくお願ひします。</p>
<p>桑原委員 (北海道経 済連合会)</p> <p>桑原委員 (北海道経</p>	<p>今回調査に関するご意見というところでは記載しなかったのですが、実は先ほどの 松本先生と、ほとんど同じような感じがしまして、今回の調査の目的っていうのはあく までも、道の施策に結びつけてくってということが一番のポイントだと思っ ております。従いまして施策に結びつくような調査のあり方というものをぜひ、考えていただ いて、やっていただきたいと思ひます。あともう1点。ヤングケアラーについては、 今後の話ということだと思っ ているのですが、自由記載というところで私が書かせて いただいたのが、ケアラーだけの問題でも非常に幅広いといひますか、対象が幅広い と課題も多分いろいろあるのだらうと思ひます。さらに、ヤングケアラーはまた別な 軸で、色々な課題があると思っ ております。</p> <p>そうする中で、ケアラーとヤングケアラーという大きなものを色々一つの有識 者会議の中で、すべて詰め込んでいくというのはなかなか大変なことではないと思っ ていて、これはあくまでも私の感想っていう事で結構ですけども、こういうふう に考 えておりますので、ある程度ポイントを整理する事業を進めていっただけならばと</p>

発言者	発言要旨
済連合会)	思います。
中村座長 (ケアラー 連盟)	<p>どうもありがとうございます。ケアラーズカフェの加藤さんはおられますでしょうか。おられないですか。</p> <p>その他ですね。いろいろご意見いただきましたけども、実際には個別部分も出てくる場所もございますので、ぜひとも個別の部分につきましては各委員の皆様方の専門分野もございますのでそれについてはですね、事務局の方からまたご相談をさせていただきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。</p> <p>では、吉田局長から一言お願いします。</p>
事務局 (吉田局長)	<p>まず第1回目の本日の会議ですが、いろいろご意見いただきましてありがとうございます。私どもの至らないところがたくさんあり、この調査票の意図がどのような形かということが伝わらなかったのだと思います。ケアラーの方がどのように困っているのか、繋がって、支えるためにはどのようなことが必要かという、そういったこと知りたいと思っております。</p> <p>まずは状況を知りたいので、いずれにしても本日いただきましたご指摘ご意見を踏まえまして、また再度明確に、こういうことで調査をやりたいということとともに、内容を精査させていただいて、また会議の場でご意見いただきたいと思っております。</p> <p>事前に個々にご相談させていただくことや、調査票も見させていただきながら並行する形で進めさせていただきたいと思っておりますし、本日のあとでも、こういったことはどうかということがありましたら、ぜひ教えていただきたいというのが率直なものですので、何卒ご協力をお願いしたいと思っております。</p>
中村座長 (ケアラー 連盟)	<p>どうもありがとうございます。</p> <p>本当であればもう一つ、相談機関の調査票も議論を予定しておりましたが、進行の不手際がございまして、大変申し訳ございませんでした。</p> <p>今日の議論いただいた部分につきましては再度整理をさせていただいて、また、次回は相談機関、そしてヤングケアラー調査というところについて進めさせていただきたいと思っておりますので、本日の協議の方につきましてはここで締めさせていただきたいと思っております。それでは事務局から、次回の開催等についてお願いします。</p>
事務局 (杉本課長)	<p>次回の開催についてですが、ただいまの委員の皆様からいただいたご意見を踏まえまして、早急に各部会でもまかせていただき、改めてご提示をさせていただいて、近々に、第2回目を開催できればと考えてございますので、また改めてよろしくお願い申し上げます。</p>
松本副座長 (北海道大 学)	<p>相談機関の方のご検討をされるということで、全体ケアラーの調査がピンポイントというかターゲットが絞られるということであれば、相談機関の方は、わりとそこに繋がっていない人も含めて、どういう状況と認識しているのかと入れておかないと、全体状況がわからないことと、もう一つはケアラー、ヤングケアラーは全てつなげていますが、これでいいのかどうかというのちょっとご検討いただければと思います。</p>

発言者	発言要旨
中村座長 （ケアラー 連盟）	<p>どうもありがとうございます。その他、ご発言はございますか。</p> <p>特にないようですので、大変時間過ぎてしまいまして、長時間にわたりまして、ご協議いただきありがとうございました。</p> <p>それでは第1回目の北海道ケアラー支援有識者会議、これもちまして終了させていただきます。どうもありがとうございます。</p>